

モデル事業名	「鉱石の道」産業遺産エコ・パーク地域マネジメントプロジェクト
活動団体名	とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人いくのライブミュージアム
ホームページ	<a href="http://www.ikuno-akindo.com/live_museum/index.html">http://www.ikuno-akindo.com/live_museum/index.html</a>
所属/ 担当者名	朝来市商工会 三浦 健太 (いくのライブミュージアム)
連絡先	076-672-2362 k.miura_shokokai@asago.org
活動地域	ひょうごけんあさごしいくのちょう くちがなやちく 兵庫県朝来市生野町 (中核地区：口銀谷地区)

### ● 活動地域の概要

(兵庫県朝来市生野町はかつて「佐渡の金・生野の銀」といわれた全国屈指の鉱山町である。口銀谷地区には6集落があり、人口1,905人、709世帯、高齢化率29.6%となっている。(平成20年住民基本台帳)

生野鉱山の開坑は807年といわれ、江戸時代は天領として、明治維新後は官営鉱山や皇室財産として管理された。明治29年に三菱に払い下げられ、以後、三菱の元で操業し、昭和48年に閉山(工場は現在も稼働中)した。しかし、生野鉱山の閉山後、1万人以上あった町の人口は約半以下にまで減少した。近年は、高齢者人口の増加とともに、年間の出生届0人の集落が急増し、地域の少子高齢化が進んでいる。

生野町には、生野鉱山の近代化産業遺産、鉱山町の面影を残す町並み、鉱山町のハイカラな生活文化や人材等が現存し、口銀谷地区にも多くの歴史資源が残る。平成10年度には口銀谷地区が兵庫県景観形成地区に指定され、平成19年度には生野町の産業遺産が「近代化産業遺産群33(経済産業省)」に認定された。これらの取り組みを背景に、生野町では、住民参画による保存活用がおこり、生野鉱山の歴史資源を後世に伝えるまちづくり(「鉱石の道」産業遺産エコ・パークの形成)を目指している。現在、町内には複数の地域活動組織があり、そのなかで、「NPOいくのライブミュージアム」が鉱山町の資源を活用した観光まちづくり組織として誕生し、平成20年9月に(社)日本観光協会と全国産業観光推進協議会が主催する第2回「産業観光まちづくり大賞」銀賞を受賞した。



【兵庫県における位置図】



【朝来市における位置図】



【鉱山町の町並みを舞台とした交流】

### ● 活動地域の課題

- ・地域の少子高齢化 ⇒ 地域文化の継承者の育成
- ・市町村合併後に希薄化した地域性の再生 ⇒ NPO等を軸とした住民活動の継続実施

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

#### ①観光まちづくり地域マネジメント方策の検討

- ・生野鉱山の歴史を資源に、住民参加による観光まちづくりの実現を目指し、口銀谷地区の住民活動グループや地域商業者を集めて、今後の方針等を協議する検討会議を4回実施した。
- ・観光まちづくりの事務局機能等の研修として、北海道遺産構想推進協議会(北海道札幌市)を先進地視察した。

#### ②鉱山町の「食」の復刻試作

- ・町内の飲食店(8店舗)と連携し、鉱山全盛時代に鉱山社宅で食べられていたハヤシライスを「生野ハヤシライス」として復活させ、生野ハヤシライス部会の設立、試食体験、シンボルマークやマップ等の作成を行った。

#### ③生野鉱山タイムマシン地域体験プログラムの開発

- ・鉱山社宅の風景の思い出話を資源に、既存の町並み散策案内のサイドストーリー的な地域紹介プログラムをつくり、古民家でトークライブのテスト実施を行った。

#### ④空き店舗活用策の検討(社会実験の実施)

- ・町内の古民家の空き店舗(生野銀山まち口番所)を活用し、生野銀山まち口番所運営協議会を組織して、観光まちづくりの拠点整備に向けた社会実験(住民参加による定期的な地域案内)を行った。

#### ⑤情報発信や意見交換の実施

- ・ホームページやブログ等を活用し、活動等に関する情報発信を行った。

## ・平成21年度

### ①生野鉾山ゆかりのコミュニティビジネスの創出

- ・町内の小規模就農者や加工品製造者を掘り起こし、生野鉾山まち口番所を拠点とした朝市（直販市）を開催し、高齢者及び定年退職者等の生きがいをづくり、NPOを軸とした集荷体制づくり、地域生産者と地域住民（消費者）のつながりづくり（直販市の開催）を行った。



### ②鉾山町の歴史文化の継承に向けた古民家活用方策の検討

- ・生野鉾山の地域ガイドを講師に招き、地域住民を対象とした研修会（鉾山での仕事や町の昔話等を学ぶ）を実施し、薄れゆく鉾山町の記憶を語り伝え、鉾山町の歴史文化の継承と地域住民の誇りづくりを通して、地域遺産を活用した地域コミュニティの形成を図った。
- ・さらに受講生を「鉾山まちナビ」として登録し、古民家（生野鉾山まち口番所）に配置した。

## ● 活動の成果

### 平成20年度

- ・観光まちづくりにおいて地域のまとめ役の機能を担うことができ、市町村合併（朝来市誕生）後、生野の特性を生野で守るという地域住民にとって大きな命題を担う団体が実績をあげることができた。
- ・生野鉾山まち口番所の活用（空き店舗活用）に伴い、地域住民との連携による「食」の復活、生野鉾山の歴史体験活動等の交流機能が完成し、観光まちづくりの基盤をつくることができた。また、昭和の高度成長期の記憶を甦らすことは、生野鉾山の最盛期を知る住民に地域への愛着を再認識させるとともに、閉山後に生まれた若者たちにとっても、生野鉾山の歴史を知ることで、地域に対する誇りを創出させた。

### 平成21年度

#### ・生野鉾山ゆかりのコミュニティビジネスの創出

朝市の開催（11月29日、12月27日）⇒ 名称「口番所の日曜日市」

第1回「口番所の日曜日市」⇒ 地域出展者：11名、出品数：500品以上、売上額：97,000円

第2回「口番所の日曜日市」⇒ 地域出展者：9名、出品数：439品以上、売上額：76,000円

- これまで地域で生産される農産物は殆どが自家消費され、ごく一部の生産者が朝市や道の駅などで販売する程度であったが、口番所の日曜日市では、陳列・販売業務も集約したことで小規模生産者の出荷体制の足がかりができ、地域住民からは地元で生産された新鮮な農産物で安全なものが安く手に入る等の理由で、継続を望む声が多くあった。
- ・鉾山町の歴史文化の継承に向けた古民家活用方策の検討  
鉾山まちナビ研修会で、当時の話を「生」で聞き、地域の歴史資源を再認識した住民が多く、参加者から高い評価を得、今後の継続開催を望む意見が出された。そのなかから鉾山まち口番所に店舗スタッフ兼町ナビとして11名が登録し実践している。

### 直近1年間の成果など

- ・生野鉾山まち口番所の「鉾山まちナビ」は、登録者を軸に継続的に実施している。これまでの研修事業の継続として、地域住民に呼びかけを行い、昔の写真やフィルム等の収集整理を行い、デジタル化による保存に取り組んでいる。
- ・観光交流の促進に向けて、平成22年9月より、レンタサイクルの事業に着手。使用する自転車は放置自転車等の再利用によるもので、生野鉾山にちなんで「銀ちゃり」とネーミングした。まずは、週末のみの貸し出しから始め、現在、貸し出ししている台数は15台である。受付窓口は、生野鉾山まち口番所を軸に来訪者への対応を行っているが、今後、地域内でのネットワークの拡大を図る。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

コミュニティビジネスが創出できたが、規模はまだ小さく、生野鉾山まち口番所での収益事業への転化には、まだ時間がかかると予測される。特に、出展者の拡大、集出荷を担う人材の育成、販売促進活動等が重点的な課題であり、持続的実施に向けて、これらの課題解決が必要である。

### ・展望（今後の取組みや検討について記入）

NPOがリーダーシップをとり、地域の住民活動等とともに、自立できるコミュニティビジネスの実施をめざす。

## ● その他（自由記述）